



東洋大学

TOYO UNIVERSITY EXCELLENT EDUCATIONAL ACTIVITY AWARDS



東洋大学

優秀教育活動賞

受賞者紹介

2023

# 優秀教育活動賞とは



東洋大学優秀教育活動賞は、2017（平成29）年度に新設された制度です。

本学で実施されている優れた教育活動（各学部の授業科目および授業に伴う教育活動）を企画実施し、学生に大きな教育効果を与えた専任教員を表彰したたえるとともに、FD活動などを通じて、優れた取り組みを全学に普及させるためにスタートしました。

この表彰制度が学内のすばらしい取り組みに光を当てるきっかけとなることが期待されます。

## 2023年度受賞者

| 氏名                                                     | 所属                                 | タイトル                                                        |
|--------------------------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| 吉田 敦                                                   | 経済学部<br>国際経済学科                     | 「ゼミナールIIA・IIB」<br>産学連携プロジェクトの推進                             |
| 藤尾 美佐                                                  | 経営学部<br>会計ファイナンス学科                 | 「GBCセミナー（II, IV, VI）」                                       |
| 窪田 佳寛<br>新藤 康弘<br>藤松 信義<br>山田 和明<br>山川 聡子<br>松本 潔      | 理工学部<br>機械工学科                      | 「シミュレーション実習」                                                |
| 高岩 裕也                                                  | 理工学部<br>建築学科                       | 「木造建築設計演習」                                                  |
| 中村 香子                                                  | 国際学部<br>国際地域学科                     | Toyo-MeWプロジェクト<br>「専門ゼミナール」を出発点とする月経をとりまく環境の改善を目指す学生主体の取り組み |
| グライアム・ロブソン<br>中井 文子<br>ボッゲンドルフ・ローレンツ<br>宮崎 裕二<br>北澤 直宏 | 国際観光学部<br>国際観光学科                   | 「国際観光学研修Ⅰ」および「国際観光学研修Ⅱ」<br>(通称:エコフェスタ)                      |
| 竹下 和貴                                                  | 生命科学部 生命科学科<br>2023年度:生命科学部応用生物科学科 | 「環境倫理学」                                                     |
| 信太 宗也                                                  | 生命科学部 生体医工学科<br>2023年度:理工学部生体医工学科  | 「プロジェクトⅠ～Ⅳ」                                                 |
| 長坂 征治                                                  | 生命科学部 生物資源学科<br>2023年度:生命科学部生命科学科  | 「植物分子栄養学」                                                   |
| 金子 雅也                                                  | 総合情報学部<br>総合情報学科                   | 「Advanced TOEIC 1」                                          |
| 辻 ひろみ                                                  | 食環境科学部<br>健康栄養学科                   | 「給食経営管理実習」                                                  |
| 石橋 彩                                                   | 健康スポーツ科学部<br>栄養科学科                 | 「スポーツ栄養学」                                                   |

## ご挨拶



大学の根幹には学生教育という使命があります。研究によって裏打ちされた教育活動は私たちが最も大切にしているものです。その活動において、学生たちの主体的な学びを支え、確かな知力の涵養に貢献された先生方が、優秀教育活動賞を受賞されました。心よりお祝いを申し上げます。受賞された先生方の個性あふれる多様な教育活動について、東洋大学におけるGPとしてご紹介いたします。現在、社会情勢は複雑になり、地球規模の課題は山積しています。そうした中であるからこそ、物事の本質を追究する強靱な思考力を学生たちが持ち続けられるように、教育活動を一層拡充してまいりたいと思います。本パンフレットが、教育経験を交流し合うための手がかりとしてお役に立てば幸いです。

選考委員長・学長 矢口 悦子



受賞者紹介

経済学部  
国際経済学科

教授  
吉田 敦



## 「ゼミナールIIA/IIIB」 産学連携プロジェクトの推進



### 受賞授業・教育プログラム

ゼミナールIIA/IIIB(吉田敦ゼミナール)では、本学に加えて5つの大学(明治大学、法政大学、駒澤大学、関西大学、名古屋外語大学)の各ゼミナール、株式会社スバストラジャパン、および大手企業と連携してフェアトレード商品の開発に取り組んできた。1年間を通じて、学生達は企業担当者とのディスカッション(市場調査や商品ニーズの把握等)を重ねるとともに、商品のコンセプトづくりからデザインや販売価格の決定に至るまで、すべての工程に主体的に取り組んできた。本プロジェクトを通じて、学生達は座学での国際経済学の知識を習得するだけでなく、主体的に社会の課題に取り組む能力を大きく向上させることができた。

### 受賞者からのコメント

この度は名誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。今回の受賞は吉田敦ゼミナールで推進してきたプロジェクトに対しての学生たちの真摯な取り組みの成果であると実感しております。プロジェクトの推進を通じて学生達はチームワークやコミュニケーション能力、プレゼン能力、そして創造性の向上など、非常に大きな教育的効果を得ることができました。最後に、本活動の推進に際しては、教職員の方々や学外の関係者の皆様のご協力が不可欠でした。改めて感謝申し上げます。





受賞者紹介

経営学部  
会計ファイナンス学科

教授

藤尾 美佐



## 「GBCセミナー(Ⅱ,Ⅳ,Ⅵ)」



### 受賞授業・教育プログラム

GBC (Global Business Communication) セミナーは、ビジネスに関する内容を英語で学ぶセミナーです。過去3年間に渡り、マレーシア・イタリア・オーストラリアの大学との合同授業を行ってきました。昨年度はその集大成で、オーストラリアのFlinders大学と、「経営と文化」というテーマで合同授業を行いました。双方の教員による講義の後、学生をグループ分けし、有名なグローバル企業を選んで、意思決定の方法やダイバーシティに対する考え方の違いなどを話し合い、レポートにまとめ、最後に全編英語での報告会を行いました。学生は英語だけでなく、コミュニケーション・ツールの違いや時差など、グローバルにプロジェクトを展開する難しさも経験できたと思います。

### 受賞者からのコメント

名誉ある賞を受賞することができ、身に余る光栄です。この合同授業では、英語面で競り負けることがあったとしても、ディスカッションでは競り負けないよう、経営学部の学生としての知識を最大限活かせるように緻密な準備をしました。最後の報告会にはTGL Pointを付け、修了証書を発行するなどの工夫もしました。今一度、お力添えをいただいた多くの先生方や教務の皆様、そして何より学生の頑張りにより感謝する次第です。





受賞者紹介

理工学部  
機械工学科

窪田 佳寛 (准教授)

新藤 康弘 (准教授)

藤松 信義 (准教授)

山田 和明 (准教授)

山川 聡子 (教授)

松本 潔 (教授)



## 「シミュレーション実習」

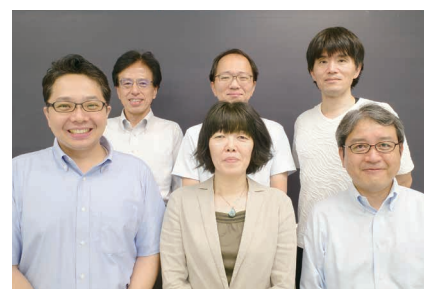


### 受賞授業・教育プログラム

本授業は、受講生が座学で学んだ機械工学の専門知識への理解を深めるとともに、デジタル技術を用いて機械工学に関係した問題を解決する方法を実践的に学ぶ科目である。数値解析ソフトウェアのMATLABを用いた設計やデータ解析などの実習を行い、授業の最終回では受講生が取り組んだ最終課題についての発表会を開催した。最終課題に取り組ませることでより自主的な問題解決能力を養うとともに、プレゼンテーションの機会を設けることで機械工学の知識を説明する技術の習得に努めている。

### 受賞者からのコメント

このたびの受賞を大変光栄に思います。本授業では、学生は機械工学に関する6つの異なるテーマを学び、自身で興味のあるテーマを掘り下げ、考察し、最終発表に繋げていきます。そのため、我々教員は、シミュレーション技術だけでなく学生の自主性を引き出すことを目標として取り組んできました。授業評価アンケートでは、「授業の一連の流れを通じて、物事を分かりやすく説明する力と課題解決力を得ることができた。」などの感想が得られ、本授業の成果だと感じています。今後もより充実した授業を提供できるよう努めます。





受賞者紹介

理工学部  
建築学科

准教授

高岩 裕也



## 木造建築設計演習



### 受賞授業・教育プログラム

理工学部建築学科の3・4年生を対象とする「木造建築設計演習」は、実在する歴史的木造建築物を調査・分析し、その建築学的価値がどこにあるのかを学生自身が考える演習です。2023年度春学期に履修した学生たちは、東洋大学の創業者である井上円了先生が創設した哲学堂公園内に現存する歴史的木造建築物を対象に演習をおこないました。現地での調査をもとに図面を作成し、歴史的価値を紹介する冊子を作成・プレゼンテーションする課題に取り組みました。

### 受賞者からのコメント

木造建築設計演習は、私が東洋大学に着任する以前から松野浩一先生がおこなっていた演習で、現在は共同で実施している演習です。現存している歴史的木造建築物を対象とする演習だからこそ、文献や写真では学ぶことができない「活書活学」ならではの学びがあると考えています。井上円了先生が残した活きた教材を活かして東洋大生の教育に携わることができること、このような貴重な賞を受賞することができたことを、大変光栄に思います。

※本演習は、井上円了哲学センターおよび井上円了記念博物館からのご協力を得て、実施しています。ここに感謝申し上げます。



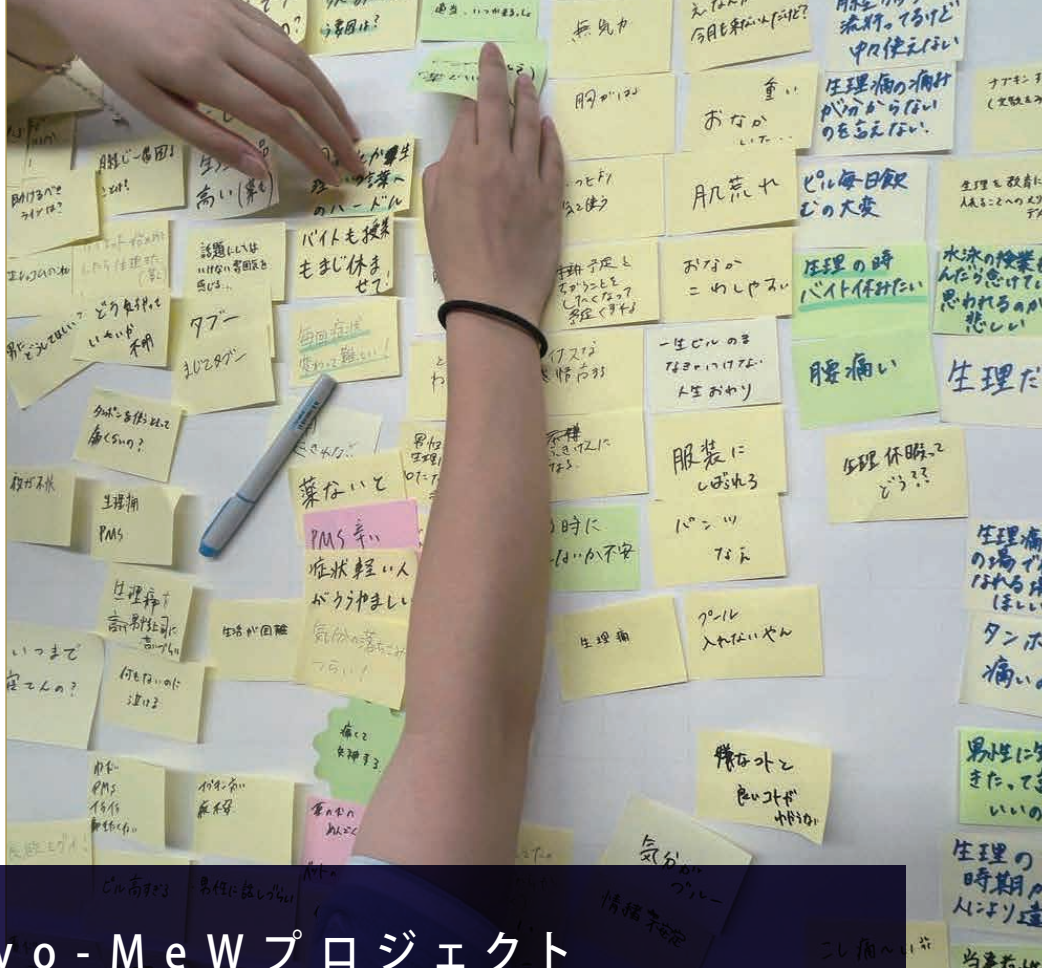
写真左：高岩裕也（准教授）  
右：松野浩一（客員教授）



受賞者紹介

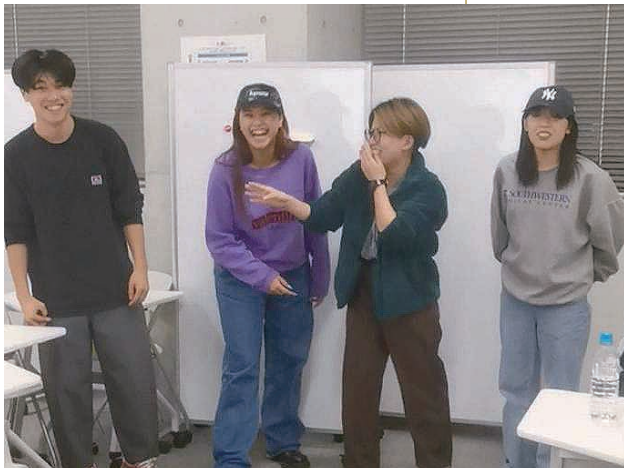
国際学部  
国際地域学科

教授  
中村 香子



## Toyo-MeWプロジェクト

「専門ゼミナール」を出発点とする月経をとりまく  
環境の改善を目指す学生主体の取り組み



### 受賞授業・教育プログラム

「異文化理解」「他者理解」を目的としたゼミナール(国際地域学演習Ⅰ/専門ゼミナールⅠ)で、事例のひとつとして「月経」を取りあげました。グループワークでブレインストーミングを実施し、KJ法を用いてアイデアの整理を行いました。この過程で、女子学生が月経について人知れず抱えているさまざまな苦勞や不満が明らかになり、また、月経について理解したいが方法がわからないという男子学生の本音、「理解」を阻害する「沈黙」と「タブー」の存在も明らかになっていきました。その後、「沈黙」を緩やかに解消することを目指して「月経漫才」の開発にも取り組みました。

### 受賞者からのコメント

本ゼミナールで月経をめぐる問題につよい関心を抱いた学生は、課外活動「Toyo-MeWプロジェクト」としてキャンパス内の月経をめぐる環境改善にとりくみました。利用者に意識調査を実施し、その結果をもとに、大学内のトイレで生理用品を無償配布することを大学に訴え、これを実現させました。これは、自らの力で課題を明らかにし、主体的に行動することで、自分の生活する社会を変革することが可能であることを実感できる学びとなりました。その後も、主体的に活動を発展させている学生たちを誇りに感じています。





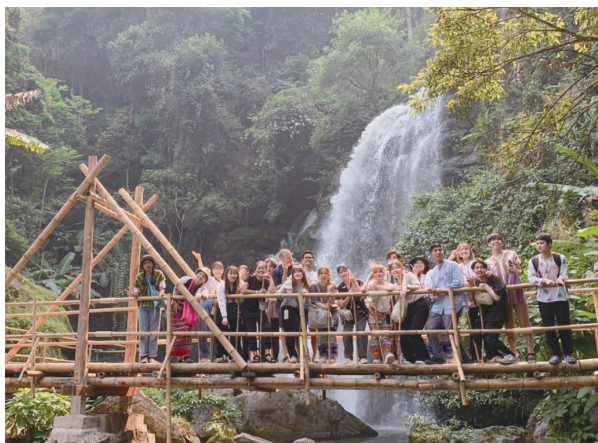
受賞者紹介

国際観光学部  
国際観光学科

グライアム・ロブソン(教授)  
中井 文子(准教授)  
ポグENDORF・ローレンツ(准教授)  
宮崎 裕二(准教授)  
北澤 直宏(助教)



## 「国際観光学研修Ⅰ」および「国際観光学研修Ⅱ」 (通称:エコフェスタ)

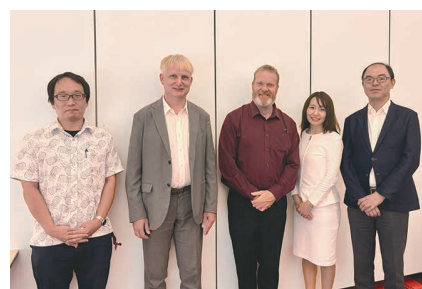


### 受賞者からのコメント

東洋大学優秀教育活動賞を受賞できることを大変誇りに思っています。学生に質の高い教育を事前研修で行っている教員や、実際にECOFESTAプログラムで深い学びを手助けしている教員や、支えてくださっている教務課の皆様感謝の気持ちを伝えたいです。このECOFESTAプログラムを引率している一人の教員として、私は学生がSDGsについて理解をし、相互文化的能力を伸ばしていることを目にしてきました。この点だけでなく、このプログラムは、学生の英語能力を向上させています。またこのプログラムの内容から卒業論文のテーマと結び付け深く考える学生もいます。国際観光学部への入学を考えている生徒がいつか、このプログラムに参加してくれることを期待しています。一緒に未来の探検を世界で行いましょう。

### 受賞授業・教育プログラム

国際観光学部では、外国語の学修により国際的なコミュニケーション能力を身につけ、国際的な観光振興に貢献することを教育研究上の目的の一つとしており、語学力向上およびグローバル人材育成を目指した学部主催の海外研修を計画・実施しています。また事前研修として国際観光学研修という授業も行われ、学生が訪れる国についての理解を深めた上で、研修に望むようにカリキュラムが計画されています。2022年度から、夏季および春季研修3コースの実施をしています(タイ・ハワイ・オーストリア・ドイツ)。すべての研修は、語学と専門的な内容を両方学ぶことができます。プログラムの特徴はSDGs(持続可能な開発目標)の理解や体験についても研修内容に盛り込み、研修プログラムをECOFESTA (Exploring and Challenging Overseas For Education of Sustainable Tourism Activities)と題して、学生のより一層のグローバル人材へと育てることを目標としています。学部教育4年間の重要な教育プログラムの一環として位置付けています。





受賞者紹介

生命科学部  
生命科学科

2023年度：生命科学部  
応用生物科学科

准教授

竹下 和貴



## 「環境倫理学」



### 受賞授業・教育プログラム

環境倫理学は、生命科学部応用生物科学科の選択必修科目として開講されており、教員による様々な環境問題に関する解説の後、その環境問題に関する学生同士のグループディスカッションを毎回実施しています。このような講義構成をとることで、受講生には、環境倫理＝良い or 悪いを一義的に決定できるものではなく、我々が取るべき環境配慮アクションに一つの正解というものはないという現実社会の困難さを身を以て理解してもらえるように努めています。

### 受賞者からのコメント

このたびの受賞を大変光栄に存じます。本科目の受講生は主に1年生ですが、生命科学分野の知識がまだ十分でない学生も内容を理解できるよう、フィールドワーカーという学部内では珍しい自身の側面を活かして、野外調査時の写真や動画を活用した講義を実施してきました。環境問題に対する学生の幅広い視野を養うことを目指した本科目ですが、私自身思いもよらない現代の若者世代の倫理観を肌で感じることも多々あり、そのような私の学びも今後の講義に還元したいと考えています。





受賞者紹介

生命科学部

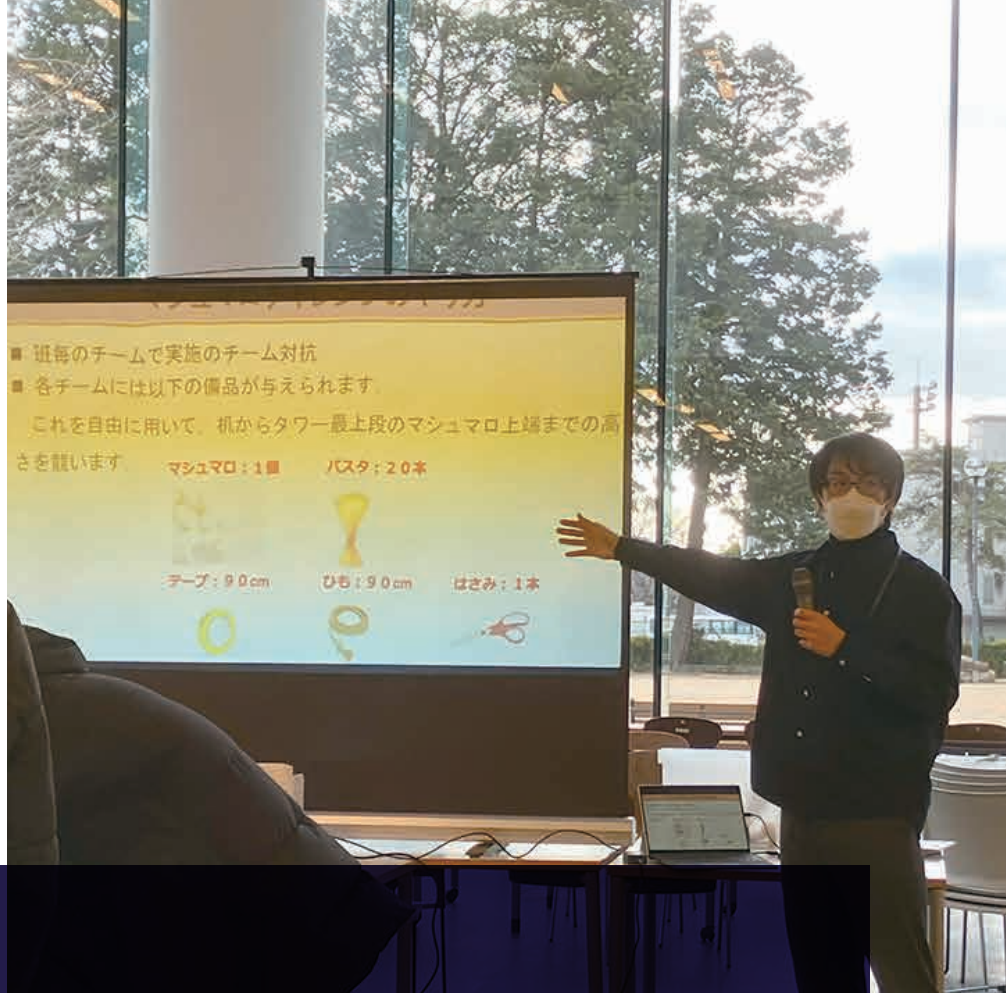
生体医工学科

2023年度：理工学部

生体医工学科

助教

信太 宗也



## 「プロジェクトⅠ～Ⅳ」



### 受賞授業・教育プログラム

「プロジェクトⅠ～Ⅳ」は学部1・2年次を通して生体医工学科において必修で実施される、一連の問題解決型授業です。例えば、本授業で学生は最先端の生体医工学に関する情報を収集、分析し、それを分かり易くプレゼンテーションする課題をグループワークとして取り組みます。このような課題を通して、学生が生体医工学の専門知識を深めると共に、その専門知識がどのように将来のキャリアパスに結び付くかの具体的なイメージを形成できるようになることを目指しています。

### 受賞者からのコメント

この度は、本授業に対して優秀教育活動賞という素晴らしい賞をいただき、大変光栄に存じます。学生が自身の興味に沿って自ら学ぶ姿勢を涵養していけるように、担当教員の研究室見学や外部講師による多様な内容の講義を実施するなど、創意工夫を凝らした授業を心がけて参りました。専門知識はもちろんのこと、国際社会でグローバルに活躍するための社会人基礎力を備えた学生を育成できるよう、今後も教育活動に努めて参ります。





受賞者紹介

生命科学部

生物資源学科

2023年度：生命科学部

生命科学科

教授

長坂 征治



## 「植物分子栄養学」



### 受賞授業・教育プログラム

「植物分子栄養学」は、生命科学部生命科学科および応用生物学科の専門科目で、開放科目として食環境科学部からも少数の受講生を受け入れています。本講義は、分子レベルでの栄養代謝機構を中心に、土壌中の元素の動態、植物の元素吸収と利用、生態系での物質循環など植物を取り巻く環境を総合的に捉えることを目的として構成しています。また、課題提出と自己採点を繰り返し実施することで、植物の栄養生理に対する理解を深めるとともに、新しい知識を自分の言葉で説明する力を身につける機会を提供できるよう心がけています。

### 受賞者からのコメント

このたびは名誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。また、ご推薦いただいた方々に厚くお礼を申し上げます。本授業は、植物の栄養生理に関する専門知識を学ぶことと同様に、学んだ知識を自分の言葉で伝える力を磨くことを重視して構成しています。再三の課題に不満を聞くこともあります。文章を書き、推敲することに慣れてきたという学生の声を聞いたときには、密かな喜びを噛み締めています。今後も改善を重ね、学生とともによりよい授業となるよう努めてまいります。





受賞者紹介

総合情報学部  
総合情報学科

助教

金子 雅也



## 「Advanced TOEIC 1」



### 受賞授業・教育プログラム

「Advanced TOEIC1」は総合情報学部の2年生以上を対象とする選択科目です。TOEICやTOEFLテストの作成機関であるアメリカEducational Testing Service (ETS)の公認トレーナーとしての知識と応用言語学者としての知識を融合させて、テストのための学習ではなく英語圏における日常生活やビジネス場面での理解力の向上に重点を置いて授業を実践しています。

### 受賞者からのコメント

応用言語学分野では理解度と語彙の強い相関関係が報告されており、理解力を向上させるには適切な語彙レベルのインプット素材を選出すべきと推奨されています(e.g., Nation, 2022)。本講義では、TOEICのインプット素材の語彙頻度分析を行い、受講学生の語彙レベルに合った素材を選出しリスニング課題として活用してきました。本取り組みが東洋大学優秀教育活動賞の受賞につながり、大変光栄に存じます。





受賞者紹介

食環境科学部  
健康栄養学科

教授

辻 ひろみ



## 「給食経営管理実習」



### 受賞授業・教育プログラム

給食経営管理実習は、管理栄養士として給食施設で給食を提供する際の問題を解決するマネジメントプロセスを、体験から学ぶ実習です。33人が各料理グループに分かれ、ひとつの献立を80食作り指定時間までに衛生的に調理・提供します。調理中も重量、時間、温度など調理を見える化するために測定も行います。誰が作っても安全かつ同じ品質であるよう、調理・提供中のモニタリングデータから問題を発見し、改善策を構築する主体的なグループ学習を目指しています。

### 受賞者からのコメント

このたびの受賞を大変光栄に思います。この実習では、組織に属する専門職として役割を分担し計画を立てて「給食を作る」方法で、指定時刻にお客様（他のクラスが試食）に衛生的でおいしい食事を提供する体験をさせています。3つのクラスで同一の教材レシピを用いていますが、協力体制の違いが食事の質に影響しています。毎年、この実習での学びの第1位は、「厳格な衛生手順」または「大量調理特性」についてでしたが、近年は「コミュニケーション」と答える者が多くなりました。学生の変化に対応しつつ実習指導を進めます。





受賞者紹介

健康スポーツ科学部  
栄養科学科

助教

石橋 彩



## 「スポーツ栄養学」



### 受賞授業・教育プログラム

スポーツ栄養士に関心を抱く学生が多いことは、本学科の特徴の一つです。一方、スポーツ栄養士の具体的な業務や活躍の場、進路に関する情報の認識不足が目立ちます。そこで本授業では、学修内容が実際の現場にどのように役立っているのか、実例を交えて説明するなどの工夫をしています。また、スポーツ栄養学の基礎や理論を理解すること、そして根拠を説明できることの重要性を繰り返し伝えることを心掛けています。

### 受賞者からのコメント

このたびは、栄誉ある優秀教育活動賞を頂戴し大変光栄に存じます。本賞にご推薦くださいました栄養学科の先生方をはじめ、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。「スポーツ栄養学」は1年次の開講される授業です。本講義を通して、スポーツ栄養分野への理解を深め、さらには将来の選択肢を広げるきっかけになると嬉しく思います。今後もスポーツ栄養の発展への貢献と一層充実した教育を学生の皆さんに提供できるよう精進して参ります。



